



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和3年6月9日

第3号

体育祭から学ぶ

校長 櫻井 弘

6月2日(水)令和3年度体育祭を実施しました。練習段階からコロナ対応について皆で考え知恵を出し合って、対策を学校全体で共有し、当日はPTAの皆様にもご協力いただきながら、コロナ禍の状況においてできる限りの体育祭であったと思います。

生徒の様子では、やはり3年生の意識は高く、昨年度全ての行事が中止や縮小になったしまい味わった悔しい思いを存分に晴らし、後輩に良い手本を見せてくれたと思います。2年生も普段からの団結力を生かし盛り上がり、1年生も一生懸命に取り組むことで体育祭を楽しんでいたように感じました。そして、どの種目にも手を抜くことなく、一生懸命に取り組んでいたI組の姿には心から拍手を送ります。今大会のスローガンは、特別な時だけの「Our hearts」ではなく、石神井中はいつも一人一人を大切に「Our hearts」でありたいなと思いました。この体育祭での体験を今後の生活に活かしてください。

「背中で見せる思い、繋がれた伝統」

天野 志保

緊急事態宣言の延長により「体育祭は実施できるのだろうか。」との不安がよぎりつつも、『体育祭を成功させたい』という実行委員の思いは途切れることは、一度もありませんでした。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、学級リレー・学年種目のみの「石神井オリンピック」としての開催でした。三年生しか知らない石神井中学校の体育祭・・・。

そのような中でも、とにかく元気に全力で取り組む一年生、先輩として自覚をもち不器用ながらもまっすぐに取り組む二年生、最高学年としてプライドをもって、常に圧倒的存在で居続けた三年生。初めてのことも多い中で、三年生が手本となり、そしてそれについていこうとする一・二年生の姿がありました。これまでの体育祭で石神井中学校が大事にしてきたものを必死に伝えようとしてくれる先輩がいる。必死に受け継ごうとしている後輩がいる。伝統がしっかりと引き継がれつつも、「自分たちの体育祭」を創り上げようとする姿は、大変立派でした。

係の仕事も多くの生徒が関わり、新型コロナウイルスの対策を徹底してくれたり、体育祭がスムーズに進むように声掛けや会場づくりをしてくれました。多くの人の協力のおかげで、体育祭が無事に終わることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、この経験を踏まえ、自分の得意不得意に限らず、何事にも全力で取り組む学校生活が送れるとよいですね。そして、皆さんがお互いの良いところに目を向け、認め合う集団になることを期待しています。

行事を終えるごとに、皆さんの仲がより深まり、笑顔で活気に満ちあふれた学校に成長していく。ウイズ・コロナ、アフター・コロナの中でも、この良き伝統を繋いでいってほしいと思っています。